

芸術庇護と信仰の私的実践とドミニコ会（1）

—『ベリー公の小さき時禱書』と
『対抗教皇クレメンス7世の祈祷書』の場合—

The Dominican Order, Books of Private Devotion and Artistic Patronage in Late Fourteenth-century France（1）:

The Case of the *Petites Heures du duc de Berry* and
the *Prayer book of Clement VII Antipope*

黒 岩 三 恵

KUROIWA Mie



Key words: 美術史、写本彩飾、トマス・アクィナス、ベリー公ジャン、対抗教皇クレメンス7世
manuscript illumination, Thomas Aquinas, Jean de Berry,
Clement VII Antipope

Abstract

The complex structure of Jean de Berry's *Petites Heures* as well as its relation to two important, now lost prayer books, i.e., the *Hours of Jean II le Bon* and the *Savoy Hours* implies that the introduction of the prayer "Concede michi," putatively composed by Thomas Aquinas, might be influenced by preceding manuscripts, while the rivalry among the Valois princes played a key role to its elaboration. On the other hand, the prayer book of antipope Clement VII, made in Avignon for the Swiss-born prelate, shows a highly personalized selection of prayers composed by eminent saints and Fathers of the Church. Although further research is necessary, it is possible that contents from analogous books for the clergy trickled down into luxury prayer books destined for the well-off laity such as duc de Berry's books of hours.

1. はじめに

すでに概観したように、14世紀末から15世紀を通じてフランス、イギリス、イタリア、ネーデルラント、スペインで名高い貴顕の為に制作された40余点の写本にトマス・アキナスの祈祷文“Concede michi”が認められる(黒岩、2014年)¹⁾。本稿で取り扱うのは、そのうち最も早い作例と考えられる、パリ制作の『ベリー公の小さき時祈祷書』(以下、『小時祈祷書』と略記)(フランス国立図書館、ms.lat. 18014)ならびにアヴィニオンで制作された『對抗教皇クレメンス7世の祈祷書』(以下『クレメンス7世祈祷書』)(アヴィニオン市立図書館、ms. 6733)の2点である。トマス・アキナスの死去からちょうど1世紀が経過し、彼の列聖から数えても半世紀余りの後、1370年代中葉のほぼ同時期にフランスの南北でトマスが自ら作成し、生前唱えるのを習いとした祈祷文が掲載された私的祈祷書類が制作されたのである。

“Concede michi”全文が世に知られるようになったのは、1318年から1323年まで数次にわたり行われたトマス・アキナスの列聖審査を継続する審査官グリエルモ・ダ＝トッコの私的な調査の成果で、1323年の秋以降のことと考えられる(Le Brun-Gouanvic 1996, pp. 39, 72-74, 156, 197)。トマスの列聖後、3月7日の祭日に執り行われる聖務日課は、早くも1326年、種々の準備を勘案して遅くとも1330年代中葉には完成していた(Bonniwell 1945, pp. 235-236)。これに対して、私的祈祷書類に“Concede michi”を載せる例は、管見では1370年代を遡るものは見つかっていない。他方、カトリック教会、ドミニコ会、そして王侯貴族階級を中心とする富裕な芸術庇護者らのいずれにとっても、1370年代中葉が歴史的に何らかの節目の意味合いを持っていたという証拠も確認できない²⁾。では、なぜ1370年代になってトマス・アキナスゆかりの祈祷文が複数の私的祈祷書類に登場しているのだろうか。2冊の私的祈祷書類の構成と制作過程を、先行研究とともに振り返ることで、1370年代の作例の時代的な特徴の有無を検証し、先行する作例が存在した可能性について考察する。

キリスト教典礼、教会音楽、讃歌、典礼式文に関する研究は³⁾、19世紀以来各領域の専門家によって進展し、近年は讃歌・式文テキストのデータベースもインターネット上で開かれた形で閲覧可能であり、新たなテキストの追加によるアップデートも行われている⁴⁾。時祈祷書を中心とする、中世後期からルネサンス期を通じて個人が日常の私的な信仰の実践の為に用いた祈祷書類に関する美術史的な研究も、挿絵、二次装飾、彩飾画家に焦点を当てる従来の方法が継承されながら、その短所であった典礼文を等閑視する傾向は改められてきている。個別の祈祷書1点を全体として論考の対象とする場合にせよ、祈祷書の中の1点の挿絵を対象とする場合にせよ、近接するテキストとの関係や祈祷者の信仰実践のコンテキストを考慮する総合的なアプローチへと方法上の洗練と展開が認められる(Naughton 1991, Manion 1991, Kumler 2011など)。しかしながら、時祈祷書の現存数は膨大であり、各写本作例が収録するテキスト内容のカタログ化は写本学・美術史的な知見のそれに比べて依然立ち遅れているのが現状である⁵⁾。時祈祷書研究全般の問題点をここに簡潔にまとめることは事実上不可能だが、『小時祈祷書』と『クレメンス7世祈祷書』の

関連する問題点を指摘することを通じて、時祷書研究の課題に光を当てていくことにもなるだろう。

2. 先行研究：『小時祷書』

『小時祷書』および『クレメンス7世時祷書』をめぐる研究は、前者が後者を圧倒する。制作年代、彩飾、使用目的等の共通性に比して、それぞれの先行研究の状況は極めて対照的といえる。

言うまでもないが、『小時祷書』の注文主がかのベリー公ジャンであることが、名高い『ベリー公のいとも豪華なる時祷書』を筆頭とする壮麗極まりない彩飾写本群にみるベリー公の愛書家としての活動の文脈の中で、同写本が19世紀末の早い時期から研究者の注目の的となった最大の理由であろう。文献資料などから推定されるのは、ベリー公が所有していた時祷書のうち、ベリー公が注文したものが6点⁶⁾、また生涯を通じて相続や贈呈によって入手したものが6点である⁷⁾。『小時祷書』に関連する最もまとまった論考は、1988年刊行の同写本ファクシミリ版への解説書として刊行された、アヴリル、ダンロップ、ヤップの共著である（1989）。

『小時祷書』研究史を時代順に概観しておく⁸⁾。まず、デュリュエが20世紀初頭に継続的に論考を発表している。1902年に『ベリー公のいとも美しき時祷書』の断簡に関する研究が、間隔をあけて1910年と1922年に『ベリー公のいとも美しき聖母の時祷書』（所謂『トリノ・ミラノ時祷書』を含む）に関する論考と部分的なモノクロ版のファクシミリ版が刊行されている。以上の論考はデュリュエ個人の写本彩飾研究の枠組みの中で横断的に位置づけられているが、加えて、彩飾画家研究の中では特にジャン・ピュセルとその工房に関する研究とならんで、サヴォワ伯夫人ブランシュ・ド・ブルゴーニュが注文した『サヴォワ時祷書』に関する論考との関連の中で⁹⁾、『小時祷書』は、1910年までにはある種の文献学的な図像とテキストの系譜の中に位置づける試みがなされていたといえる。

デュリュエ以降の『小時祷書』に関する主要な論考は、1960年代後半から1980年代に登場した。一つ目は、モランドによるジャン・ピュセルに関するモノグラフィーである（1962）。同書は、ジャン・ピュセルの歿年に関する新資料の発見に先行することもあって、『小時祷書』にジャン・ピュセルの真筆も認められるとする、今日では否定された立場を取る（p. 19以降）。ついで、1967年のミースの著書が挙げられる（pp. 160-193）。ベリー公の彩飾写本の分野における庇護活動に関して刊行された3冊の著書の最初の巻である同書では、14世紀後半のパリを中心とする写本彩飾の動向を個別に検討する中で、ジャン・ピュセル工房とベリー公との関わりという様式論観点から『小時祷書』が取り扱われる。次いで、1960年代末から1970年代を通じてF.アヴリルが行ったジャン・ピュセルとその工房に関する一連の総合的な研究において、『小時祷書』は、1971年にバロンの発見によりジャン・ピュセルの歿年が確定したことにも作用して（Baron）、ピュセル自身を筆頭として工房内の近似する様式を個別の画家の手に識別する試みは新たな段階に入った。アヴリルは、古文書の記録と彩飾の様式を根拠に、ミースが『小時祷書』の受難の聖

務日課の挿絵を描いたことから「受難の画家」と命名した画家が、ヨランド・ド・フランドル、シャルル5世、シャルル6世、最後にベリー公ジャンに仕えたジャン・ルノワールと同定した (Avril, Dunlop & Yapp 1989, pp. 61, 96-109)。ジャン・ルノワールの活動期が1350年代初頭から1375年頃までと推定されることは、後述するように、この画家が『小時禱書』を彩飾したのが遅くとも1375年までであることを意味する。

さて、1988年に刊行されたファクシミリ版『ベリー公の小さき時禱書』は、同写本が完全に複製化された点において美術史研究上の重要性を持つ (Avril, Dunlop & Yapp, 1989)。今日では、所蔵先であるフランス国立図書館のインターネット・サイトで『小時禱書』の電子版がページ単位で閲覧可能となつて¹⁰⁾、写本の調査と研究をめぐる状況は一変した。そうは言っても、ほぼ原寸大の冊子本形式のファクシミリ版がオリジナルの物質的な特徴をできる限り忠実に伝える重要性は減じているわけでは決してない。アヴリルとダンロップの筆による解説書は、1960年代以来の合衆国とフランスにおける画家の様式を中心とする研究を総括するものであった。同書では、写本の注文者ベリー公ジャン (pp. 9-20 および 33-39)、写本の来歴 (pp. 21-32)、写本学的データ (pp. 40-63)、テキスト (pp. 64-87)、上述の先行研究 (pp. 88-94)、彩飾画家と彩飾 (pp. 95-139) の各項目に関してアヴリルが詳細な解説を執筆している。

『小時禱書』ファクシミリ刊行後の研究の動向としては、ベリー公が注文しながら制作が中断されたばかりではなく、未完の時禱書の紙葉が15世紀を通じて所有者を転々としながら徐々に彩飾を施されたことが知られる時禱書、すなわち1904年に焼失した所謂『トリノ時禱書』を含む複雑な制作の歴史を持つことで知られる『ベリー公のいとも美しき時禱書』(この写本の分蔵先については、註1参照)のファクシミリ版の解説書が特筆される (Van Buren, Avril & Dunlop, 1996)。

『小時禱書』を考察するうえで注目すべきなのは、今日トリノ市立図書館が蔵する『トリノ=ミラノのミサ典書』¹¹⁾ファクシミリ解説書において、ヴァン・ビューレンが、『トリノ=ミラノのミサ典書』を含む『ベリー公のいとも美しき時禱書』の歴史を、ベリー公ジャンの年譜を紹介し、フランスとネーデルラントにまたがる複雑な所有者の交代と彩飾の実態を研究史とともに整理する各章で、先行作例である『小時禱書』掲載の祈禱文との関連を言及している箇所である¹²⁾。特に、シャルル5世がサヴォワ伯妃ブランシュ・ド・ブルゴーニュの遺産管財人から購入したと推定される『サヴォワ時禱書』に改変を加えて発展させた、時禱書とミサ典書を合冊した祈禱書が、ほぼ同一の内容を持つ『小時禱書』、論考の主対象である『いとも美しき時禱書』、さらにブルゴーニュ公フィリップの『大時禱書』を生み出すにいたった経緯をまとめた節は、デュリュールからド・ヴァンテール等による各種の二次資料を援用しながら広い視野から『ベリー公の小さき時禱書』が誕生した経緯を明らかにする (pp. 262-268)。

また注目されるのは、『ベリー公のいとも美しき時禱書』を構成する、つごう4点の写本(ないし残闕)が統合され、1冊の写本として概観する一覧表が作成されたことである。そこでは、合計7段階にわたる制作段階が区別され、各段階と年代において制作された挿絵が一覧表の形式でまとめられた(同書、pp. 389-393)。この表は必ずしも彩飾されている祈禱文テキストの使用式

など詳細な同定をするものではないが、すでに1911年にデュリュユーによってなされた先行研究に見える同写本と『ベリー公のいとも小さき時祷書』の祈祷文テキストとの照合とともに参照すると、後者の特性を浮き彫りにするうえで有効である。

なお、フランス国立図書館の電子書籍サイト Gallica 上の『小時祷書』電子版には、ヴァン・ビューレン等の論考とも重なる先行研究を踏まえたテキストに関する詳細な解説がつけられているが、典拠がわかりにくい憾みがある¹³⁾。

3. 『対抗教皇クレメンス7世の祈祷書』¹⁴⁾：先行研究

『小時祷書』に対して、『対抗教皇クレメンス7世の祈祷書』（以下『クレメンス7世祈祷書』）の先行研究は、決して多いとは言えない。ゴシック美術における主導的な位置ゆえに西欧を包括する観点から論考が重ねられてきたフランス北部美術の作例とは対照的に、『クレメンス7世祈祷書』という作品にせよ、教皇庁・大シスマ時代のアヴィニョンの美術史的な研究せよ、あるいはプロヴァンス派として知られる油彩画を中心とするモニュメンタルな美術作品の研究を含めて¹⁵⁾、その重要性にもかかわらずどちらかといえばローカルな歴史研究の文脈で扱われる傾向が続いてきたと言える。その研究は以下の3領域に大別される。

第一に、レオネリらを中心として研究が進められた、プロヴァンスの地方美術史の見地から、教皇庁が置かれた時代のアヴィニョンの絵画史・写本彩飾史の文脈における研究や企画展覧会カタログにおける解説が一つの研究群を形成している（Leonelli 1978, 1979, 1987, 1992）。これらは、アヴィニョンに拠点を置いた教皇ならびに対抗教皇の治世ごとに、各時期に制作された美術品を取り扱う編年体の一形式をとる。

第二の領域はこれに対して、少なくとも経歴の一部をアヴィニョンを拠点として活動した画家・工房の活動に注目し、彼らがアヴィニョン以外で制作したり外国の注文主のために制作したりした作例を含む。特に、『クレメンス7世祈祷書』の彩飾画家の一人と推定されるジャン・ド・トゥルーズならびに工房に関する研究は、マンツァーリがアヴィニョンの彩飾写本の歴史に関する論考において、2006年時点までの研究史を踏まえて概観がまとめられ（Manzari 2006）、以後新たな作例が確認されている（Charron, Gautier & Girault 2013, pp. 116-121, no. 23）。しかしながら、いわゆる国際ゴシック様式の揺籃の地の一つとされる14世紀後半のアヴィニョンらしく、フランス北部、ボヘミア、イタリア、あるいはネーデルラントの様式的混交がジャン・ド・トゥルーズの特徴とされ、彼が相当規模の工房を経営した有能な実業家としての顔も持っていたと説明されるように（Stones 2007, p. 286; Manzari 2011, p. 5）、『クレメンス7世祈祷書』の彩飾が様式的な同一性を保っている一方で、同じ画家の手に帰属される他の作例との間には同一の画家の手になるとは考えにくいような相違が大なり小なり確認され、アヴィニョンで活動した画家の様式を確定し、現存写本の彩飾画家を同定する作業は依然途上にあり、工房の組織や写本の制作に携わる各種の職人の間の分業と共同制作の実態についても積み残された課題があるように思われ

る。

『クレメンス7世祈祷書』の個別研究も、この写本に関係する古文書の研究や（Kane 1994）、彩飾画家に関する研究が出されている（Leonelli, Stirnemann, Delaunay & Moench 1993, no. 18, pp. 67-69）。他方、祈祷集を構成する各種の祈祷文とその彩飾の研究は進んでいるとは言えず、『クレメンス7世祈祷書』を同種の私的祈祷文書類と比較し、歴史的、文献学的な位置づけをするためには、挿絵のない祈祷文書類を含む写本作例の調査と分析が望まれる。

第三の傾向は、アヴィニョンの芸術庇護者たちによるパトロネージ研究である。もとより、対抗教皇クレメンス7世についての研究は、大シスマを核とする教皇制の歴史や教会史、あるいは同時代すなわち1370年代後半から1380年代の音楽、文学の歴史の領域において進められてきた¹⁶⁾。美術史的な研究は個別作品に関する事例研究や、時代的な背景を説明する際に参考資料としてクレメンス7世に結びつけられる言及がなされるのとどまる傾向にあった。これに対して、2013年に提出されたモンティの博士論文は、クレメンス7世の芸術パトロネージに焦点を当て、アヴィニョン市内に点在する種々の建造物を主たる対象としながら、論文後半ではマンツァーリの論考を踏まえながら彩飾写本について2章を割く（Monti 2013）。生粋の聖職者ではなく、俗人からカトリック教会の最高位に登ったクレメンス7世にとって、入り組んだ政治情勢の難局を乗り切ることが喫緊の課題であったことは否定できないが、政治的な側面と私的な信仰の実践との関わりを検討することが、『クレメンス7世祈祷書』においては肝要となつてこよう。

4. 『小時祈祷書』成立の背景

『小時祈祷書』は、1375年頃と、およそ10年間の中断を挟み1385年から1390年頃の二つの時期に分けて彩飾が行われたことが知られている。まず、1375年ころにジャン・ルノワールならびに工房が、時祈祷書全体の彩飾の下描きを第2装飾を含めて行ったうえ、受難の聖務日課を筆頭に、特に重要な大型の挿絵については彩色まで完成した。そのほかの大型挿絵ならびに小型挿絵の数点では、ジャン・ルノワールの筆が相当入っているものの、彼の死去を理由として未完のまま中断していることがうかがえる。さらに、写本全体に分散して彩飾は別の画家の様式的特徴を示すが、ジャン・ルノワールの特徴をよく示す下絵が、大小の挿絵に認められる（本稿末尾附録I「『ベリー公の小さき時祈祷書』祭礼等一覧」を参照）。ついで、1380年代後半にジャクマル・ド・エダンと偽ジャクマルら3人または4人の画家によってジャンがやり残した彩飾が完成されたとするのが定説である¹⁷⁾。ミースにより三位一体の画家と命名された画家の存在を認めるかどうか等の問題は、アヴリルが1989年にミースの仮説に疑念を呈して以来明確な定説を確立するには至っていないのが研究の現状であるが（Avril, Dunlop & Yapp, 1989, pp. 122-124）、こうした個別的な様式の再検討については本稿では取り扱わない。なお、本稿末尾の附録I「『ベリー公の小さき時祈祷書』祭礼一覧」には、各挿絵の制作者についてもローマ字略号で表記した。

さて、なじみのない時祈祷、随意ミサなどに他に例を見ない複雑な構成を認めることができる『小

『時禱書』は、単に注文主の意向を反映したものなのだろうか。俗語による「神に従って正しくこの世に生きるための教え」は、f. 8 から f. 15v まで掲載されている、比較的長いテキストである。テキストを導入する、ジャン・ルノワールの下図をジャクマール・ド・エダンが完成させた、祈るベリー公ジャンにドミニコ会会員が天上界の天使を指し示す挿絵を筆頭として計 3 点の挿絵が挿入されている (図 1)。このことと典礼暦に続く時禱書冒頭という位置から、同テキストの重要性が伺える。王子を指導する者として挿図に描かれるドミニコ会会員は、ベリー公の聴罪司祭を表したものと解釈可能だ。彼が、ベリー公の意を汲みながら、『小時禱書』の構成の考案に主導的な役割を果たしたとの仮定すれば、同じくドミニコ会に属するトマス・アクィナスの祈祷文が掲載されている理由も彼の意向によって説明可能となる。

ところで、『小時禱書』ファクシミリ版の解説書において、アヴリルは『小時禱書』が「神に従って正しくこの世に生きるための教え」を収録する唯一の現存例であることに加え、ドリール (Delisle 1907, t.II, p. 237, no. 96) ならびにギフレ (Guiffrey 1894, t.I, p. 257, no. 968) を引用して、このテキストがベリー公の父ジャン 2 世が幼少時に読み方を習った時禱書に掲載されていたものと同一であり、ジャン 2 世の時禱書が甥であるアンジュー公ルイ 2 世によってベリー公に譲渡されていることを指摘している (Avril 1989, p. 222)。

他方、伝トマス・アクィナス作詞の祈祷文 *Concede michi* を導入する挿絵は (f. 117v)、その様式的な特徴から、1385 年から 1390 年ころまでの『小時禱書』の制作の第二段階において偽ジャクマールの画家によって完成された。アヴリルは、挿絵から透けて見える下図が、1355 年頃からシャルル 5 世に重用され、1380 年ころまで活躍したジャン・ド・シの聖書の画家のものと類似していることを指摘し、ジャン・ルノワールが下図を描く前に死去したことをもってこの画家が制作を継承した可能性を指摘している (Avril, Dunlop & Yapp 1989, pp. 285-286)。この画家の関与の時期は明確には示されていないが、ジャクマール・ド・エダンらによる『小時禱書』への介入よりも前、すなわち 1375 年以降 1380 年までの間と推定できる¹⁸⁾。

このように、ドミニコ会会員の図像を含む挿絵は、下図と彩色が別々の画家によって、各々異なる時期に完成されている。彩飾の様式的な相違と制作時期が対応しているために、彩飾に隣接するテキストも同時代に筆写されたかのような印象を受ける。しかしながら、アヴリルが解明したように (同上書、1989)、写本学的な見地からは、テキスト全体の筆者が 1375 年以前に完成していると考えられる。

上述したアヴリル (同上書 1989, pp. 222-224) が引用する、ギフレが刊行したベリー公の財産目録の『ジャン 2 世の時禱書』の記述には、トマス・アクィナス作の祈祷文に関するいかなる言及も確認されないこと、そもそもジャン 2 世の手習いの教材でもあった時禱書の制作年代は 1320 年代中葉に遡るはずで、トマス・アクィナスの列聖の年よりも古い可能性さえある。したがって、『小時禱書』に掲載されるトマス・アクィナス作祈祷文の先行モデルがあったと仮定するならば、別の時禱書にそれを求めなければならない。

『小時禱書』ならびに『小時禱書』を部分的に踏襲して構想された『ベリー公のいとも美しき時

『サヴォワ時禱書』の成立には、ベリー公の長兄であるフランス王シャルル5世が入手した『サヴォワ時禱書』とシャルル5世の発案による祈祷文と彩飾の追加があったことが知られている（Delisle 1907, t.I, pp. 208-213; Durrieu 1910）。シャルル5世以下4兄弟は、そろって芸術庇護に熱心で奢侈品に目がなかったばかりではなく、政治的な野心からも競い合って芸術品を注文した（Wieck 2005）。周知のごとく、時禱書の注文も例外ではない。相互の影響関係については議論が分かれるが、シャルル5世が補完した『サヴォワ時禱書』に倣って、ベリー公は『小時禱書』と『いとも美しき時禱書』を、ブルゴーニュ公は『フィリップ豪胆公の大時禱書』を制作したという説がある（Van Buren 1996, p. 262; Wieck 2005, pp. 125-126）。すでに紹介したとおり（黒岩、2014）、これらの時禱書のうちベリー公が注文した2冊の時禱書ともにトマス・アクィナス作祈祷文が記載されていることは、『サヴォワ時禱書』をはじめ、兄弟らが注文した時禱書からの影響が考えられる。

しかしながら、『ベリー公のいとも美しき時禱書』の一部を構成していた通称『トリノ時禱書』が焼失したのと同じ1904年のトリノ国立図書館の火災によって『サヴォワ時禱書』の大半が失われた。火災に先だってデュリュエとドリールが行った現地調査により、『サヴォワ時禱書』の巻末に、ベリー公の秘書ジャン・フラメルペンによって時禱書の目次が記されていたことがわかっている。比較的詳細な内容を示すその翻刻には、トマス・アクィナスの名前は見出せない（Delisle 1907, t.I, pp. 211-212; Durrieu 1911, pp. 516-517）。しかしながら、デュリュエの翻刻に基づけば、33番目と41番目に登場する、ともに“Item (pluseurs) autres oraisons à Dieu”（本稿末尾附録Ⅲの和訳参照）と記載されている箇所、トマス・アクィナス作の祈祷文“Concede michi”が含まれている可能性は否定できない。

兄たちに挑むかのようにブルゴーニュ公が、上述のとおり『小時禱書』彩飾の下図制作に加わったジャン・ド・シの聖書の画家を雇って制作させたのが『フィリップ豪胆公の大時禱書』である。1980年代半ばにド・ヴァンテールが行った論考では、『サヴォワ時禱書』との影響関係、写本制作を請け負った書店主ジャン・ラヴナンの経歴、彩飾画家の様式分析と制作年代の推測の観点からこの大時禱書の考察が行われている（De Winter 1982）。様式分析と古文書の解読を柱とする伝統的な手法を用いる美術史研究者によるこの論文では、古文書等の文献資料によってフィリップ豪胆公の写本の注文の動機と彩飾について紙幅を費やしたのち、書籍商に関連する資料の紹介に重きが置かれる。ド・ヴァンテールによる2次文献からはトマス・アクィナス作の祈祷文の存在も、その他の祈祷文テキストに関する言及も見えない。所蔵図書館における実地調査によってトマス・アクィナスのテキストの記載が確認される可能性は残され、制作年代上はわずかに『小時禱書』に先行する可能性もあることから、『フィリップ豪胆公の大時禱書』と『小時禱書』が、同一の文献学的な原典から姉妹写本として派生したのではなく、一方が採用した祈祷文テキストを、もう一方も続けて採用するような兄弟間の競合が推定されうる。いずれにせよ、実際の写本の調査が今後の課題である。

5. 『対抗教皇クレメンズ7世の祈祷書』

『クレメンズ7世祈祷書』は、寸法が145×111mmと、私的祈祷書類としては比較的大型である¹⁹⁾。様式の分析から彩飾がアヴィニョンで活動した二人の画家と工房によって彩飾されたと同定可能である（Manzari 2006 および 2011）（図2）。挿絵を担当したジャン・バンディーニ（Jean Bandini）は、この写本の為に1385年と1386年に教皇庁から支払いを受けており、1380年代から14世紀末まで活動したと推定される。他方、2次装飾は、ジャン・ド・トゥルーズによって制作された。比較的規模の大きい工房を経営していたジャン・ド・トゥルーズの活動期は、1380年代から1410年代である。『クレメンズ7世祈祷書』は、ジャン・ド・トゥルーズの最も早い作例と考えられる。写本のほぼ全てのフェリオに描かれるクレメンズ7世の紋章であるペテロの鍵と教皇冠によって、この写本がクレメンズ7世の登位（1378年）後に際作されたことが明らかである。二人の彩飾画家の活動時期、特にジャン・バンディーニの支払い記録から1380年代前半に制作が開始され、1385年から86年に完成したと考えるのが妥当であろう。

したがって、ジャン・ルノワールの推定歿年（1375年）から、『クレメンズ7世祈祷書』が『小時祈祷書』よりは5年から8年程度後になって制作されたことがほぼ確実である。当写本の祈祷文の掲載の順番などは、『小時祈祷書』とはまったく異なっている。所有者の嗜好を比較的自由に反映して、祈祷文のテキスト類の選択が写本ごとに異なるのがこのタイプの祈祷書の最大の特徴の一つである。とはいえ、写本制作の地域・拠点ごとに相当程度の規格化も進行していたことを考慮すると、『クレメンズ7世祈祷書』には、先行するモデルがあったと推定することは十分可能であるばかりではなく、『小時祈祷書』とは異なった系統の祈祷書類の系譜に連なる可能性がある。こうした写本からトマス・アクィナスの祈祷文が抜き出されて、『小時祈祷書』へ導入された、というシナリオもありうるのである。

本稿の末尾の附録Ⅱ「『対抗教皇クレメンズ7世の祈祷書』祭礼等一覧」にみるとおり、この写本は、聖母への祈祷から始まってトマス・アクィナス、アウグスティヌス、ヒラリウス、アルクイン、ベダ、グレゴリウス1世、クレメンズ1世等、教皇や教父、教会博士が著したと当時考えられていた祈祷文を収録する。巻頭には典礼暦がなく、合計で70葉足らずというページ数から、可能性の一つとして、当初は写本の前半部分が作られて、暦、聖母の小時祈、聖人請願、連祈等、通常時祈書に掲載されるような祈祷文を含んでいた可能性が考えられる²⁰⁾。他方、上記に列挙した祈祷文の作者の顔ぶれが、いずれも名高い神学者であることから、クレメンズ7世が特に敬意と信仰を寄せていた先達の祈祷文を編集して作られた、まさに個人の私的信仰の実践のための薄型の祈祷集であったという可能性も指摘しなければならない。これらの著者による祈祷文のうち、アウグスティヌスやヒエロニムス、グレゴリウス1世作とされるものが他の祈祷書類に認められる一方、ヒラリウス、クレメンズ1世の作とされる祈祷文は珍しい²¹⁾。第1節で述べたように、こうしたテキストに挿絵、図像入り彩飾頭文字がつけられない場合、中世彩飾写本の所蔵機関が刊行するカタログにおいて言及がなされないことが多いことは、図像を伴う、伴わない

に関わらず、私的祈祷書類に祈祷文が導入した時期を知るための障害となっている。

6. 結びに代えて

以上のように、1375年前後と1380年代後半にパリで制作された『小時祈祷書』と1380年代半ばにアヴィニョンで制作された『クレメンス7世祈祷書』の制作の状況をまとめてみると、伝トマス・アクィナス作祈祷文“Concede michi”の私的祈祷書類への導入の歴史について、以下のような事実と今後の研究の課題が見えてくる。

相前後する2点の祈祷書類が、一方が平信徒を、他方が聖職者を使用者とすることは、拙論(2014)でまとめたような限定された、しかし平信徒を中心とする使用者の間で祈祷文“Concede michi”が流布するにあたり、まずは聖職者層で祈祷文が知られ、ついで『サヴォワ時祈祷書』のような特別な祈祷書類へ、おそらくは聴罪司祭などのような聖職にある助言者によって導入され、そうした写本から、ヴァロワ朝の王子たちのように君主間の芸術庇護上の競争意識に促されるようにして、政略結婚等によって関係が深かったヨーロッパ各地の宮廷へと波及したという経路への仮説が立てられるように思われる。

しかし、おそらくは無彩飾の写本が多いことも原因かと考えられるのだが、確認された聖職者を対象とした祈祷書類が少数であることは、『クレメンス7世祈祷書』の文献学、美術史的な位置づけを不確かなものになっている。したがって、テキストの検索を主たる方法として、より多くの作例サンプルを収集する必要がある。

他方、現時点で『小時祈祷書』が、祈祷文“Concede michi”を掲載する最古の写本であるとしても、もっと古い作例が記録上であれ、現存する形であれ確認されることは大いに可能性がある。喫緊課題としては『サヴォワ時祈祷書』の派生写本の精査によって、祈祷文“Concede michi”が収録されているか否かを確認する必要がある。特に、『小時祈祷書』にわずかに遅れて開始され、1378年には完成していた『ブルゴーニュ公の大時祈祷書』の確認が必須である。しかし、フィリップ豪胆公の聴罪司祭もドミニコ会会員であり、『サヴォワ時祈祷書』をモデルとするほかに聴罪司祭の発案で“Concede michi”が別の原典から導入された可能性が、ベリー公の『小時祈祷書』の場合と同様考えられることには注意する必要があるだろう。『サヴォワ時祈祷書』と同時代の1340年代後半辺りまで遡って現存作例の検索と調査をすることによって、平信徒、そしておそらくは聖職者向けに制作された写本を発見できることが期待される。

すでに言及したように、祈祷文“Concede michi”は、トマス・アクィナスの列聖審査のプロセスと並行して1323年頃にグリエルモ・ダ・トッコの聖人伝に導入された(黒岩2014, p. 55)。その後、流行の兆しが見えていた時祈祷書へとこの祈祷文が転載されるのに、さほど時間を要したとは思われない。要となるのは、トマス・アクィナスの生前からの名声と列聖後の崇敬が、私的祈祷書類を用いていた聖職者を含む貴顕にどのような重要性を持っていたのか、という点とも関わってくるように思われる。トマス・アクィナスという特異な聖人と彼の業績をめぐる世人の評価

と崇敬が、多分に政治的な動機を伴いながら、技術と洗練の粋を集めた彩飾祈祷書類へとその痕跡を残したことについては、托鉢修道会における宣教活動や学芸の振興、彼らと深い交流のあった貴顕を中心とする俗人の活動とも絡めながら、より広い歴史的な文脈でとらえていく必要がある。

(本研究は、JSPS 科研費 25370139 の助成を受けたものです。)

注

- 1) その後、新たに発見された写本に以下のものがある。大英図書館：Add. 50004, Harley 1260, Harley 2887, London 1808, 1, pp. 637-639, 2, 717-718 参照。；ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館：Reid 60 (MSL/1902/1702)、Reid 74 (MSL/1903/2078), Watson 2011, 1, cat. 47, 163 参照。；ワデスドン・マナー：MS. 9, Delaissé, Marrow & de Wit, 1977, pp. 181-214 参照。
- 2) Bonniwell 1945, p. 236 によれば、トマス・アクィナス祭礼式文と聖歌の不人気ゆえに 1376 年のドミニコ会総会が全地方管区に対して 2 年以内にすべての典礼所に式文と記載するよう勧告を出したという。これが平信徒の信仰にまで波及する可能性があったのかどうかは検討する必要があるだろう。
- 3) 讃歌の集成としては、*Analecta Hymnica Medii Aevi* 55 巻 (1886-1922) が早い例である。
- 4) “Global Chant Database” URL <http://www.globalchant.org/> ; “CANTUS Index” URL <http://cantusindex.org/> などがある。
- 5) たとえばハヴェイ・ミラー社から刊行されている『イギリス島嶼の彩飾写本調査』シリーズの写本カタログは、写本学的な知見を取り込んだ先駆的な編集と詳細な作品解説を特徴とするが、私的祈祷書類のテキストに関する情報は、挿絵主題一覧から類推するほかない。系統化された図像伝統を持たず、時課に拘束されない伝トマス・アクィナス作 “Concede michi” や類例の祈祷文がある写本に収録されているのかどうかに関しては確認することができないことになる。
- 6) ベリー公が注文した時祈祷書は、『小時祈祷書』のほか、『ブリュッセル時祈祷書』(ブリュッセル、アルベール 1 世王立図書館、ms. 11060-61)、『ベリー公の美しき時祈祷書』(ニューヨーク、メトロポリタン美術館クロイスターズ・コレクション、Acc. No. 54. 1. 1)、『ベリー公のいとも美しき時祈祷書』(以下に分冊・分蔵される。『ベリー公の美しき聖母時祈祷書』(フランス国立図書館、NAL 3093); 『トリノ時祈祷書』(焼失; トリノ大学公立図書館、ms. K.IV. 29); 『ルーヴル断簡』(ルーヴル美術館、RF 2022, RF 2023, RF 2024, RF 2025); 『トリノ・ミラノのミサ典書』(トリノ市立古代美術館、Inv.no. 47)、『ベリー公のいとも豪華な時祈祷書』(コンデ美術館、ms. 65)、『ベリー公の大時祈祷書』(フランス国立図書館、ms.lat. 919)。また、以下註 7 参照。
- 7) Guiffrey, 1894-96; Delisle, 1907, 2, pp. 237* (no. 96), 238* (no. 97), 240* (nos. 102^{ter}, 106), 241* (nos. 109, 110^{ter})。
- 8) Avril, Dunlop & Yapp 1989, pp. 88-94 も参照。
- 9) 『サヴォワ時祈祷書』に関しては、Delisle 1907, Blanchard 1910, Durrieu 1911, De Winter 1982, De Hamel 1990, Wieck 1991, Van Buren 1996, pp. 262-265。
- 10) 『小時祈祷書』電子版は、以下の URL で閲覧可能である。“Petites Heures de Jean de Berry” : <http://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b8449684q.r=duc+de+Berry.langFR>
- 11) 同写本の日本語表記は、次の文献に倣った。富永良子 (訳) 1996 ならびに Boespflug & König

1998 (和訳 2002 年)。

- 12) 英語版解説書、p. 252 および n. 20; pp. 260-261 および n. 21; p. 262 および n. 28; p. 263 および n. 35; p. 270 および n. 23.
- 13) 註 10 参照。
- 14) 『クレメンス 7 世祈禱書』の電子版ファクシミリは存在しないが、彩飾ページの画像は以下のサイトで閲覧可能である。フランス国立テキスト史研究院 (IRHT) 彩飾写本カタログ Initiale 内アヴィニオン市立図書館写本 6733 のページ : URL http://initiale.irht.cnrs.fr/ouvrages/ouvrages.php?id=-1&bloc_recherche_ouvrage=none&bloc_resultats_ouvrage=block&page=1&resetForm=0&imageId=-1&codexId=-1&idMedium=
- 15) プロヴァンス派絵画の研究としては Laclotte & Thiébaud 1990、西野 1994、Thiébaud, Lorentz & Martin 2004 (含む参考文献一覧) など。
- 16) モノグラフィとしては、Hayez 1980, Logoz 1974, Favier 1966、研究論文に Rollo-Koster 2003, Pieragostini 2006 等。
- 17) Meiss, 1967, pp. 160-191; Avril, 1989, pp. 110-131.
- 18) ただし、ジャン・ド・シの聖書の画家がベリー公ジャンの末弟ブルゴーニュ公フィリップ豪胆公が書籍商ジャン・ラヴナンに誂えさせた 2 巻構成の『フィリップ豪胆公の大時禱書』を彩飾していたと推定される 1376 年以降 1379 年以前は、ジャンとフィリップの長兄シャルル 5 世が『シャルル 5 世の聖務日課書』、『ビープル・イストリアル』等を制作されていたのも同じ 1370 年代後半であることを考えると、同画家が『小時禱書』の彩飾に関与した時期と度合を具体的に推定する余地がありそうである。
- 19) 先行研究が記述する寸法と異なり、本稿で提示するのは葉紙の寸法である。
- 20) なお、1380 年代までの教皇庁・対抗教皇時代のアヴィニオンでは時禱書が珍しかったことがマンツァーリにより指摘されている。それによれば、1340 年記の最古の時禱書が現存するほか (アヴィニオン市立図書館、ms. 121)、1346 年の教皇関連の文書に 1 点の時禱書が確認され、彩飾画家エティアヌ・ジェネリス (Etienne Generis) 死亡時に作成された 1375 年の財産目録にも 1 点が見える反面、1350 年代から 1370 年代頃までは記録にも時禱書の存在の確認ができない。以上、Manzari 2011, 5-6 参照。1380 年代以降に時禱書がアヴィニオンでも流行の兆しを見せ始めることは、『クレメンス 7 世祈禱書』の当初の構成・内容を推定する際に、念頭に置く必要があるだろう。
- 21) 祈禱文の内容についての記載が詳しい、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館ならびにウォルターズ・アート・ミュージアム (旧称ウォルターズ・アート・ギャラリー) が所蔵する写本カタログでは、ヒラリウス、クレメンス 1 世作の祈禱文は確認されなかった。Watson 2011 および Randall 1992 参照。

【参考文献一覧】

- Alexander, J.J.G., Marrow, J.H. & Sandler, L.F. (2005). *The Splendor of the word: Medieval and Renaissance illuminated manuscripts at the New York Public Library*. New York: The New York Public Library-London: Harvey Miller.
- Avril, François, Dunlop, Louisa & Yapp, Brunson (1989). *Les petites heures de Jean, duc de Berry : introduction au manuscrit lat. 18014 de la Bibliothèque nationale, Paris*. Luzern : Faksimile

Verlag.

- Baron, Françoise (1971). *Enlumineurs, peintres et sculpteurs parisiens des XIV^e et XV^e siècles, d'après les archives de l'hôpital Saint-Jacques-aux-Pèlerins*. In *Bulletin archéologique du comité des travaux historiques et scientifiques*, 77-115.
- Blanchard, Dom P. (1910). *Les Heures de Savoie. Facsimiles of fifty-two pages from the Hours executed for Blanche of Burgundy, being all that is known to survive of a famous fourteenth-century MS., which was burnt at Turin in 1904*. London: Chiswick Press.
- Böesflug, François & König, Eberhard (1998). *Les « Très belles Heures » de Jean de France, duc de Berry. Un chef-d'œuvre au sortir du Moyen Âge*. Paris : Cerf. (和訳：フランソワ・ベスフルグ、エバーハルト・ケーニヒ著、富永良子訳『ペリー公のいともしき時禱書』、岩波書店、2002年)
- Charron, Pascale, Gautier, Marc-Edouard & Girault, Pierre Gilles (Dirs.) (2013). *Trésors enluminés des musées de France*. Angers - Paris : Musée d'Angers-INHA.
- De Hamel, Christopher (1990). *Les Heures de Blanche de Bourgogne, comtesse de Savoie*. In Bagliani, Agostino Paravicini, *Les manuscrits enluminés des comtes et ducs de Savoie*, (pp. 89-91). Torino : Umberto Allemandi.
- De Winter, Patrick M. (1982). *The Grandes Heures of Philip the Bold, Duke of Burgundy: The Copyist Jean L'Avenant and His Patrons at the French Court*. *Speculum*, 57(4), 786-842.
- Delaissé, L.M.J., Marrow, James, de Wit, John (1977). *The James A. de Rothschild Collection at Waddesdon Manor: Illuminated manuscripts*. Fribourg: Office du Livre.
- Delisle, Léopold (1884). *Les Livres d'Heures du duc de Berry*. *Gazette des Beaux-Arts*, 29, 391-405.
- Delisle, Léopold (1907). *Les recherches sur la librairie de Charles V*. 2 Vols., Paris : Champion.
- Durrieu, Paul (1902). *Heures de Turin : quarante cinq feuillets à peintures provenant des Très belles Heures de Jean de France, duc de Berry : reproduction en phototypie d'après les originaux de la Biblioteca Nazionale de Turin et du Musée du Louvre*. Paris : s.n.
- Durrieu, Paul (1904). *Les Manuscrits à peinture de la bibliothèque incendiée de Turin*. *Revue archéologique*, 1, 394-406.
- Durrieu, Paul (1910). *Les très belles Heures de Notre Dame du duc de Berry*. *Revue archéologique*, 1, 30-51, 246-279.
- Durrieu, Paul (1911a). *Les aventures de deux splendides livres d'heures ayant appartenu au duc Jean de Berry*. In : *La revue de l'art ancien et moderne*, 30, 5-16.
- Durrieu, Paul (1911b). *Notice d'un des plus importants livres de prière du roi Charles V - Les Heures de Savoie, ou « Très belles grans Heures » du roi Charles V*. *Bibliothèque de l'École des chartes*, 72, 500-555.
- Durrieu, Paul (1922). *Les très belles Heures de Notre Dame du duc de Berry*. Paris : Société française de reproduction de manuscrits à peintures.
- Fastes (1981). *Les Fastes du gothique. Le siècle de Charles V (1338-1380)*. Catalogue d'exposition, 9 octobre 1981 - 1^{er} février 1982. Paris : Réunion des musées nationaux.
- Favier, Jean (1966). *Les Finances pontificales à l'époque du grand schisme d'Occident* (Bibliothèque des Écoles françaises d'Athènes et de Rome). Paris: De Boccard.
- Guiffrey, Jules (1894-96). *Inventaires de Jean, duc de Berry. 1401-1416*. 2 Vols., Paris: Ernest

Leroux.

- Hayez, Anne-Marie (1980). *Clément VII et Avignon*. In Favier, Jean et al. (Eds.), *Genèse et début du Grand Schisme d'Occident. [colloque tenu à] Avignon, 25-28 septembre 1978*. Paris: CNRS.
- Kane, Eileen (1994). Documents pour le livre de prières du pape Clément VII. In *Mémoire de l'Académie de Vaucluse*, série 8, 3, 91-97.
- König, Eberhard (2006). Innovation et tradition dans les livres d'heures du duc de Berry. In Taburet-Delahaye, Elisabeth (ed.). *La création artistique en France autour de 1400. Actes du colloque international, Ecole du Louvre – Musée des Beaux-Arts de Dijon – Université de Dijon* (pp. 25-44). Paris : Ecole du Louvre.
- Korteweg, Anne S. (2005). The form and content of Jean de Berry's Books of Hours. In Dücker, Rob & Roelofs, Pieter (Eds.). *The Limbourg Brothers : Nijmegen Masters at the French Court 1400-1416*. Catalogue of the Exhibition held at Museum Het Valkhof, Nijmegen 28 August-20 November 2005 (pp. 134-147). Nijmegen: Ludion.
- Kumler, Aden (2011). *Translating truth: Ambitious images and religious knowledge in late medieval France and England*. New Haven: Yale University Press.
- 黒岩三恵 (2014) 「私的祈祷書類におけるイメージ機能の諸相：聖トマス・アクィナス図像と祈禱文の問題を中心に」『ことば・文化・コミュニケーション』第6号 49-86。
- Laclotte, Michel & Thiébaud, Dominique (1990). *L'école d'Avignon* (nouv.éd.), Paris : Flammarion.
- Leonelli, Marie-Claude (1978). *Avignon 1360-1410: art et histoire*. Catalogue d'exposition, 25 septembre-25 novembre 1978. Musée du Petit-Palais. Avignon : Centre international de documentation et de recherche du Petit Palais.
- Leonelli, Marie-Claude (1979). Un Libraire d'Avignon à l'époque du grand schisme. In *Bulletin philologique et historique du Comité des travaux historiques et scientifiques*, (1977), 15-22.
- Leonelli, Marie-Claude (1987). La Dévotion aux saints d'après les livres d'Heures confectionnés à Avignon. In *Mémoires de l'Académie de Vaucluse*, 7e série, 6, année 1985, 327-335.
- Leonelli, Marie-Claude (1992). Le Livre de prières du pape Clément VII. In *Mémoires de l'Académie de Vaucluse*, 8e série, 1, 131-144.
- Logoz, Roger Charles (1974). *Clément VII (Robert de Genève): sa chancellerie et le clergé romand au début du Grand Schisme, 1378-1394*. Lausanne : Payot.
- London (1808). *A catalogue of the Harleian manuscripts, in the British Museum*. 3 vols., London:s.l.
- Manion, Margaret M. (1991). Art and devotion : The prayer-books of Jean de Berry. In Manion, Margaret M. & Muir, Bernard J. (Eds.), *Medieval Texts and Images : Studies of Manuscripts from the Middle Ages* (pp. 177-200). Sydney: Harwood Academic Publishers.
- Manzari, Francesca (2006). *La miniatura ad Avignone al tempo dei papi (1310-1410)*. Modena : Panini.
- Manzari, Francesca (2011). Harley MS. 2979 and the books of Hours produced in Avignon by the workshop of Jean de Toulouse. In *eBLJ* 21, article 11. Retrieved from <http://www.bl.uk/eblj/2011articles/pdf/ebljarticle112011.pdf> [accessed 3 November 2015]
- Meiss, Millard (1967). *French painting in the time of Duke de Berry : The late fourteenth century and the patronage of the Duke*. London: Phaidon.
- Monti, Elizabeth (2013). *Art for an antipope : Patronage at the court of Clement VII (1378-1394)*

- (Doctoral dissertation). ProQuest Dissertations & Theses Global. (UMI Number : 359125)
- Morand, Kathleen (1962). *Jean Pucelle*. Oxford : Clarendon Press.
- Murray, Paul (2013). *Aquinas at prayer: The Bible, mysticism and poetry*. London: Bloomsbury.
- Naughton, Joan (1991). A minimally-intrusive presence: Portraits in illustrations for prayers to the Virgin. In Manion, Margaret M. & Muir, Bernard J. (Eds.), *Medieval Texts and Images : Studies of Manuscripts from the Middle Ages* (pp. 111–126). Sydney: Harwood Academic Publishers.
- 西野嘉章 (1994) 『十五世紀プロヴァンス絵画研究 : 祭壇画の図像プログラムをめぐる一試論』 岩波書店。
- Paris (2004). *Paris 1400: Les arts sous Charles VI*. Catalogue d'exposition, 22 mars -12 juillet 2004. Paris : Musée du Louvre.
- Pieragostini, Renata (2006). Unexpected contexts: Views of music in a narrative of the Great Schism. *Early Music History*, 25, 169–207.
- Randall, L.M.C. (1989). *Medieval and Renaissance Manuscripts in the Walters Art Gallery*. Vol.I, *France, 875–1420*. Baltimore: The Johns Hopkins University Press-The Walters Art Gallery.
- Rollo-Koster, Joëlle (2003). The politics of body parts: Contested topographies in late-medieval Avignon. *Speculum*, 78(1), 66–98.
- Thiébaud, Dominique, Lorentz, Philippe & Martin, François-René (2004). *Primitifs français. Découvertes et redécouvertes*. Catalogue d'exposition au Musée du Louvre, 27 février – 17 mai 2004. Paris : Réunion des Musées nationaux.
- 富永良子訳 (1996) 『パリ国立図書館蔵本ファクシミリ版 ベリー公のいともしき聖母時禱書 解説書』、岩波書店。
- Van Buren, Anne, Marrow, James H. & Pettenati, Silvana (1996). *Heures de Turin-Milan : Inv.No. 47, Museo Civico d'Arte Antica, Torino. Kommentar-Commentary-Commentaire*. Luzern : Faksimile Verlag.
- Watson, Rowan (2011). *Victoria and Albert Museum. Western illuminated manuscripts: A catalogue of works in the National Art Library from the eleventh to the early twentieth century, with a complete account of the George Reid Collection*. 3 Vols., London: V & A Publishing.
- Wieck, Roger S. (1988). *Time Sanctified: The book of Hours in medieval art and life*. New York: Braziller - Baltimore: Walters Art Gallery.
- Wieck, Roger S. (1991). The Savoy Hours and its impact on Jean, duc de Berry. *Beinecke Studies in Early Manuscripts. The Yale University Library Gazette Supplement*, 66, 159–180.
- Wieck, Roger S. (2005). Bibliophilic jealousy and the manuscript patronage of Jean, duc de Berry. In Dückers, Rob & Roelofs, Pieter (Eds.). *The Limbourg Brothers : Nijmegen Masters at the French Court 1400–1416*. Catalogue of the Exhibition held at Museum Het Valkhof, Nijmegen 28 August–20 November 2005, pp. 120–133. Nijmegen: Ludion.
- Wixom, William D. (1964). Twelve masterpieces of Medieval and Renaissance Book Illumination. A catalogue to the exhibition. *The Bulletin of the Cleveland Museum of Art*, 51 (3), 43–63.

【附録 I】

ベリー公の小さき時祷書祭礼・挿絵主題一覧¹⁾

[略号 JLN =ジャン・ルノワール；JH= ジャクマール・ド・エダン；PJ= 偽ジャクマールの画家；TM= 三位一体の画家；LB= ランブール兄弟；* は、ジャン・ルノワールの下図を、+ は、推定ではジャン・ド・シの画家の下図を完成したことを示す]

折丁 I (ff. 1-7)

Ff. 1-6v: 教会暦 PJ*

F. 7-7v: [空白]

II (ff. 8-15)

Ff. 8-15v: 「神に従って正しくこの世に生きるための教え」

F. 8: 〈奏楽天使 14 体に囲まれた神；跪く貴頭に向かって立ち、天上を指さすドミニコ会会員〉 JH* (図 1)

F. 9v: 〈左右に 4 人の天使を従えたキリスト；立って手を合わせる貴頭に向かって立ち、天上と地下を指さすドミニコ会会員；四肢で這い回るネブカドネザル王〉 PJ*

F. 12: 〈キリストと対話する預言者？；椅子から転落する白髪有髭の男・竈の前で食事をする男女〉 PJ*

III (ff. 16-21)

F. 16-16v: [空白]

Ff. 17-20v: ルイ 9 世聖王の子への教え

F. 17: 〈教えを記した文書を子に託す病床のルイ 9 世〉 JH*

F. 21-21v: [空白]

IV (22-29)

Ff. 22-51: 聖母の小時祷

F. 22: 〈受胎告知〉 JLN+JH

V (30-37)

F. 32v: 〈御訪問〉 JH

F. 38: 〈降誕〉 JH (Avril:JH*)

VI (38-44)

F. 40v: 〈羊飼いへのお告げ〉 PJ* (Avril:JLN+JH)

F. 42v: 〈東方三博士の礼拝〉 JH (Avril:JH*)

VII (45-52)

F. 45v: 〈エジプト逃避〉 JH*

F. 48v: 〈聖母の戴冠〉 TM (Avril:TM*)

Ff. 51v-52v: [空白]

VIII (53-60)

Ff. 53-59: 悔悛詩篇

F. 53: 〈4 福音書記者に囲まれた玉座のキリスト〉〈ダヴィデとゴリアテ〉〈豎琴を弾くダヴィデ〉 JLN

Ff. 59-63: 連禱、4つの祈禱

IX (61-68)

Ff. 63v-66v: 主の受難の定時課の祈禱

F. 63v: 〈磔刑〉 PJ*

Ff. 67-75v: 聖霊の時禱

F. 67: 〈キリストの洗礼〉 TM (Avril:TM*,PJ*)

X (69-76)

F. 69: 〈聖霊降臨〉 PJ

F. 70: 〈三位一体〉 TM*

F. 71: 〈説教するペトロ〉 PJ*

F. 72: 〈ペトロに先導されて聖堂に入る信徒〉 TM*

F. 73: 〈信徒に洗礼を施すペトロとパウロ〉 PJ*

F. 74: 〈祭壇の前に立つペトロと跪拝する信徒たち〉 TM*

F. 75: 〈聖霊からの靈感を受けて執筆する大グレゴリウス〉 PJ*

Ff. 76-96: 受難の時禱

F. 76: 〈キリストの逮捕〉〈銀貨を受け取るユダ〉〈橄欖山の祈り〉 JLN

XI (77-84)

F. 79v: 〈大祭司の前のイエス〉 JLN

F. 82: 〈キリストへの嘲笑〉 JLN

F. 83v: 〈キリストの笞打ち〉 JLN

XII (85-92)

F. 86: 〈十字架の運搬〉 JLN

F. 89v: 〈磔刑〉 JLN

F. 92v: 〈降架〉 JLN

XIII (93-99+98bis)

F. 94v: 〈埋葬〉 JLN

Ff. 96v-100: 聖母子への賛歌 "Summe summi tu patris unice" [cf.NAL 3093, pp. 225-**]

F. 96v: 〈聖母子に祈るベリー公〉 JH (Avril:JH*)

XIV (100-107)

Ff. 100v-103v: 神への祈禱 "Deus pater omnipotens rex eterne glorie ..."

F. 100v: 〈宇宙を祝福する玉座の神の前で跪いて聖書を読むベリー公〉 TM (Avril:TM*)

F. 103v: 聖母への祈祷 “Virgo Maria mater dei nobile trinitatis ...” [cf.NAL 3093, p. 239]

F. 103v: 〈聖堂内で聖母子に祈るベリー公〉 TM

Ff. 104- : 聖人たちへの祈願

F. 104: 〈天使たち〉 PJ? “Omnes beatorum spirituum ordines. Ad bonum ...” [cf.NAL 3093, p. 240]

〈洗礼者ヨハネ〉 PJ? “Baptista Johannes prece Christi amicus sponsi ...”

F. 104v: 〈預言者たちと使徒たち〉 PJ? “Gloriosi patriarche prophetori, apostoli ...”

〈マグダラのマリア〉 PJ? “Gloriosa Magdalena quodam peccatrix tandem Christi ...”

F. 105: 〈殉教聖人たち〉 PJ? (Avril:PJ+) “Omnes sancti martyres michi ...”

F. 105v: 〈証聖人たち〉 PJ? “Omnes sancti confessores devitionem ... »

〈童貞聖女たち〉 PJ? “Omnes sancte virginis mentis et corporis ... »

F. 106 : 〈祭壇上の玉座のキリストに祈るベリー公〉 PJ “Et tu Deus meus creator redemptor et protector ...”

Ff. 106v- : 神への各種の祈祷文

F. 106v: 〈祭壇の前で両腕を交叉して神に祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “Pater noster ex quo omnia ...”

XV (108-115)

F. 115v: 〈玉座のキリストに祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “Oroison. Deus qui de sani patris missis est in mundum ...”

XVI (116-123)

F. 117v: 〈トマス・アキナスに伴われて神に祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “Concede michi misericors Deus ...”

F. 118v: “Memoria de sancto Thoma de Aquino. Militans doctor ecclesie ...”

F. 119: 〈祭壇前で神に祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “Oroison. Pardurables Diex gouverneurs regardez-nous et nous donner ...”

F. 119v: 〈祝福する神に向かい祭壇前で祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “Savoureux Jhesus Christ notres debonnaire syres ...”

F. 120: 〈聖母子と福音書記者ヨハネに挟まれて祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “O intemerata”

F. 121v: 〈祝福する神に向かい祭壇前で祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “Misericor Deus et misericor consolator et defensor ...”

F. 122: 〈聖母子の向って祈るベリー公〉 PJ (Avril:PJ+) “Tres douce vierge pucelle Marie mere Jhesuchrist ...”

Ff. 123v-130v: “聖ヒエロニムスの詩篇”

F. 123v: 〈祝福する神に向かって祭壇前で祈るシエナの聖ベルナルディヌス?〉 PJ
 (Avril:PJ+) “verba mea auribus percipe domine intellige clamorem meum ...”

XVII (124-131)

Ff. 130v- : 祈祷文

F. 130v: “O dulcissime Jhesu Christe sicut desidero sicut tota mente pecco ...”

F. 131v: “Domine Christe fili Dei ...” [7 回反復]

XVIII (132-139)

Ff. 132v-144: 週日ごとの略式聖務

F. 132v: 日曜日 - 三位一体のための聖務〈恩寵の座〉 PJ

F. 134v: 月曜日 - 死者のための聖務〈通夜の務め〉 PJ*

F. 136: 火曜日 - 諸聖人のための聖務〈玉座に座す聖母を祝福するキリスト；諸聖人座像〉
 PJ+

F. 137v: 水曜日 - 聖霊のための聖務〈並んで座り、手を取り合う父と子、両翼の先端が
 父子の口に触れている白鳩〉 TM* (Avril:JLN+TM)

F. 139: 木曜日 - 秘蹟のための聖務〈聖体の秘蹟を執り行う聖職者〉 PJ (Avril:PJ+)

XIX (140-146)

F. 140v: 金曜日 - 主の受難の聖務〈キリストの逮捕〉 TM* (Avril:JLN+TM)

F. 141: 晩課〈降架〉 PJ*

終課〈復活〉 PJ*

F. 141v: 土曜日 - 聖母のための聖務〈受胎告知〉 TM (Avril:JLN+TM)

F. 142v: 一時課〈マリアを神殿に連れるアンナとヨアキム〉 PJ*

三時課〈神殿で祈るマリア〉 PJ*

F. 143: 六時課〈降誕〉 PJ

F. 143v: 九時課〈授乳する聖母〉 PJ

晩課? 〈祈る聖母に祭壇を示す天使〉 PJ

F. 144: 終課〈聖母の臨終〉 PJ*

Ff. 144v-145: 祈祷文〈玉座に座す聖母を祝福するキリスト；祈るベリー公〉 PJ* “Deus propicius
 esto michi peccatori ...”

Ff. 145v-154v : 祈祷文〈祭壇に向かって祈るベリー公を祝福する神〉 TM? (Meiss:TM, Avril:PJ+)
 “A, a, a Domine Deus Pater misericordiarum audeo ne venire et apparere ...”

XX (147-154)

XXI (155-160)

Ff. 155-167v : イエス・キリストの受難に際して聖母の悲歎の聖務

F. 155: 朝課〈キリストの埋葬〉 PJ*

F. 158: 讃課〈ゲツセマネの祈り〉 TM

F. 160: 一時課〈十字架の運搬〉第5の画家*

XXII (161-168)

F. 161: 三時課〈十字架の設置〉第5の画家*

F. 162: 六時課〈キリストの昇架〉PJ

F. 163: 九時課〈空の石棺の傍らで祈る聖女たち〉TM

F. 164: 晩課〈磔刑〉PJ*

F. 166: 終課〈冥府降下〉PJ*

Ff. 167v-176: “ミサの時に唱えるべき祈祷”

F. 167v: 第一の祈祷文〈聖歌を歌う聖職者の傍らで祭壇前で聖書を読むベリー公〉PJ
(Avril:PJ+)

XXIII (169-176)

F. 169v: 第一の祈祷文と福音書朗読の間に唱えるべきフランス語の祈祷文〈聖歌を歌う聖職者の傍らで祈るベリー公〉PJ (Avril:PJ+)

F. 170v: 福音書朗読後に唱えるべき祈祷文〈書見台に向かって朗読をするベリー公〉PJ
(Avril:PJ+)

F. 171: 奉献祈願と叙唱前句の間に唱えるべきフランス語の祈祷文〈奉献するベリー公を祝福する聖職者〉PJ? (Avril:PJ+)

F. 172: 感謝の讃歌を聖職者とともに歌った後に唱えるべきフランス語の祈祷文〈聖職者が掲げる聖体に向かい祈るベリー公〉PJ (Avril:PJ+)

F. 173v: 平和の讃歌の後に唱えるべきフランス語の祈祷文〈助祭が差し出すパテナに接吻するベリー公、祭壇の前でカリスを手取る司祭〉PJ (Avril:PJ+)

F. 174v: 聖体拝領の際に唱えるべきフランス語の祈祷文〈聖体を拝領するベリー公一族?〉PJ (Avril:PJ+)

F. 176: 聖体拝領後に唱えるべきフランス語の祈祷文〈パテナを司祭に差し出す助祭の傍らで祈祷書を読むベリー公〉PJ (Avril:PJ+)

Ff. 176v-181v: 聖アンセルムス作のフランス語の祈祷文

F. 176v: 聖アンセルムス作の十字架へのフランス語の祈祷文〈磔刑像に向かって祈るベリー公〉PJ (Avril:PJ+)

XXIV (177-182)

Ff. 181v-182v: 聖ユリアヌスと聖マルタの記念祭

F. 181v: 聖ユリアヌスと聖マルタへの旅行者の請願〈サンチャゴ巡礼者を船上から祝福するキリスト、竜を連れたマルタ、權を握ったユリアヌス〉PJ

XXV (183-190)

Ff. 183-196: 三位一体の時祷

F. 183: 朝課〈三位一体立像〉TM

- F. 186v: 讚課〈横臥するアダムを見る二位一体の神〉TM（Meiss: 第5の画家）
 F. 188: 一時課〈祈るアブラハム？を祝福する同形の三位一体の神〉TM
 F. 189: 三時課〈ケルビム1対が支える玉座に座す祝福するキリストに向かって飛翔する聖霊〉TM

XXVI（191-198）

- F. 191: 六時課〈キリストの洗礼〉PJ*
 F. 192: 九時課〈山上のエリヤ、キリスト、モーセ〉TM
 F. 193: 晩課〈民衆に説教をするキリストへ飛翔する聖霊〉PJ*
 F. 194v: 終課〈冠を脱いで玉座のキリストへ祈る王侯、聖霊の鳩〉TM*
 Ff. 196-198v: 三位一体の各位格に対するフランス語の祈祷文
 F. 196: 父なる神への祈祷〈恩寵の座〉TM
 F. 196v: 子なる神への祈祷〈磔刑のキリストに向かって祈るベリー公〉PJ?（Avril: PJ*）
 F. 197v: 聖霊なる神への祈祷〈聖霊降臨〉PJ（Avril: PJ*?）
 F. 198: 三位一体への祈祷〈恩寵の座に向かって祈るベリー公〉PJ*
 Ff. 198v-201v: 聖母・天使への祈祷
 F. 198v: 聖母へのフランス語の祈祷〈天后としての聖母と子へ向かって祈るベリー公〉TM

XXVII（199-202）

- F. 199v: 天使へのフランス語の祈祷〈天使に導かれて歩むベリー公〉第5の画家
 F. 202-202v: [空白]

XXVIII（203-210）

- F. 203-215: 洗礼者ヨハネの時禱
 F. 203: 朝課〈聖堂前に置かれた祭壇に向かい香炉を振るザカリヤに告知をする天使〉JH?（Meiss: TM, Avril: JH*）
 F. 206: 讚課〈御訪問〉PJ*
 F. 207: 一時課〈ヨハネの誕生、ザカリヤによる命名〉JLN+TM（Avril）
 F. 208: 三時課〈動物に囲まれる荒野の少年ヨハネ〉JLN+TM（idem）
 F. 209v: 六時課〈キリストの洗礼〉TM+PJ?

XXIX（211-216）

- F. 211: 九時課〈ヘロデ王の前に連行されたヨハネ〉JH*
 F. 212v: 晩課〈サロメの舞〉JLN+TM（Avril）
 F. 214: 終課〈ヨハネの斬首〉TM
 F. 216-216v: [空白]

XXX（217-224）

- Ff. 217-237: 死者のための聖務

F. 217: 〈通夜の聖務〉 PJ

XXXI (225-232)

XXXII (233-238)

Ff. 237v-238v: [空白]

XXXIII (239-246)

F. 239-267: ラテン語からフランス語に翻訳された博士たちに依拠するキリストの受難

F. 239: 〈磔刑〉 PJ

XXXIV (247-254)

XXXV (255-262)

XXXVI (263-270)

F. 267-278: フランス語による受難をめぐる聖母とクレルヴォーのベルナルドゥスの対話

F. 267: 〈天の聖母に向かって祈る3人の聖女と信徒たち〉 PJ

XXXVII (271-278)

Ff. 278v-281v: ソロモンの玉座にたとえられる慈愛の六階梯

F. 278v: 〈慈愛の6つの階梯と美德の寓意像〉 PJ

XXXVIII (279-286)

F. 282-286: 3人の生者と3人の死者の寓話

F. 282: 〈墓地で3人の死者に遭遇する3人の生者〉 PJ

F. 286-287v: 磔刑のキリストの嘆き

F. 286: 〈哀悼〉 PJ

XXXIX (287-290) 後補の折丁

F. 288: [空白]

F. 288v-290: 旅行者のための祈祷文

F. 288v: 〈随行員を伴い城館から出発するベリー公〉 LB

【附録 II】 『対抗教皇クレメンズ 7 世の祈祷集』 祭礼・挿絵一覧

[略号 JDT= ジャン・ド・トゥルーズ；JB= ジャン・バンディーニ]²⁾

*挿絵のない全てのテキスト・ページの左欄外余白：ドラゴン、クレメンズ 7 世の紋章、ペテロの鍵、教皇冠などを組み込んだ U 字型または L 字型棒状装飾 JDT

**挿絵のないテキスト・ページの棒状装飾に上記以外のモチーフで特筆すべきものは、以下、該当箇所に記述した。

折丁 I (ff. 1-7)

F. 1v: 聖母への祈祷 “O beata et intemerata ...”

F. 1v: 挿絵〈福音書記者ヨハネにとりなされ、玉座の聖母子の前で跪くクレメンズ 7 世〉 JB

図像入り彩飾頭文字 “O” : 〈巻物をくわえた鷲を伴う執筆する福音書記者ヨハネ〉 JB

欄外：アカンサス文の間でペテロの鍵、教皇冠を持ち、楽器を奏する天使たちを組み込んだ U 字型棒状装飾 JB

F. 6: 挿絵〈書物を持った助手を控えさせながら天蓋様の書斎で執筆をする聖トマス・アクィナス〉 JB

クレメンズ 7 世の紋章を組み込んだキツタ文 U 字型棒状装飾 JDT

F. 6v: 「福者トマス・アクィナスが作詞した神への祈祷文 Concede michi ...」

F. 6v: 図像入り彩飾頭文字 “C” : 〈祈祷台の前に跪き神に祈る聖トマス・アクィナス〉 JB

欄外：クレメンズ 7 世の紋章を組み込んだキツタ文 U 字型棒状装飾 JDT

II (ff. 8-15)

F. 8: 「聖アウグスティヌス作詞の祈祷文」

F. 8v: 挿絵〈助祭 4 人を従え、祭壇の前で聖体を掲げる聖アウグスティヌス〉 JB

欄外：教皇冠とクレメンズ 7 世の紋章を組み込んだキツタ文棒状装飾 JDT

III (ff. 16-23)

F. 16: 「聖ヒエロニムスによる詩篇抄」

F. 16: 挿絵〈城館のような書斎で執筆をする聖ヒエロニムス、天井近くで枢機卿の帽子を持って飛ぶ天使〉 JB

欄外：ドラゴンとクレメンズ 7 世の紋章を組み込んだキツタ文 U 字型棒状装飾 JDT

F. 21v: バ・ド・パージュ 〈棒状装飾を両手で支える短剣を腰に帯びた男〉 JDT

IV (ff. 24-31)

F. 28: 右欄外余白 〈クレメンズ 7 世の紋章を胸元で支え、正面観で立つ天使〉 JDT

F. 29: バ・ド・パージュ 〈頭上に交差したペテロの鍵とクレメンズ 7 世の紋章を掲げてしゃがむ天使〉 JDT

F. 30: 「聖ヒラリウスによる特別に災いを除くよう神に誓願するための詩篇聖句抜粋」

[*** 聖ヒラリウスの詩篇抜粋の全頁の棒状装飾、彩飾頭文字、ライン・エンディングは

JDT 工房による。その他の要素については、以下、当該頁の記述を参照。]

F. 30: 挿絵〈高座に正面向きに座し、2人の助祭が膝の上に広げる書物に執筆をする聖ヒラリウス〉JB

V (ff. 32-39)

F. 34: バ・ド・パージュ〈赤い頭巾の垂れ飾りをつかんで蝶を追う、薄布を体に巻きつけたプットー〉JDT

F. 38: バ・ド・パージュ〈棒状装飾の水平部分の上に座り、左右からクレメンス7世の紋章を支える薄布をまとったプットー〉JDT

VI (ff. 40-47)

F. 40: バ・ド・パージュ〈クレメンス7世の紋章を各面に描いた立方体の箱を担ぎ、交差したペテロのカギをかたどった風車を持つ裸足の男〉JTD

F. 41v: 左欄外余白〈棒状装飾に腰掛け、口から情報に伸びる棒状装飾を吐き出す女—ドラゴン〉JTD

F. 42: バ・ド・パージュ〈水平の棒状装飾の上に座り、クレメンス7世の紋章の上に教皇の三重冠を高く掲げる天使〉JDT

F. 43: 左欄外余白〈左足の靴紐を締め直す男〉JDT

F. 44: 左欄外余白〈クレメンス7世の紋章を首から下げ、棒状装飾を見上げる薄布をまとったプットー〉JDT

F. 47: 左欄外余白〈クレメンス7世の紋章を両手で抱える天使〉; 右下欄外余白〈悪魔を退治する、クレメンス7世の紋章と十字架のモチーフを散らした衣を着た天使〉すべてJDT

F. 47v: 左欄外余白〈棒状装飾に寄りかかる裸足の男〉JDT

VII (ff. 48-55)

F. 49: バ・ド・パージュ〈重りのついた首環につながれた猿に吠え掛かる犬〉JDT

F. 51: バ・ド・パージュ〈ふざけ合う3人の薄布をまとったプットー〉JDT

F. 52v: バ・ド・パージュ〈2本の樹木の間で抱き合う2人の薄布をまとったプットー〉JDT

F. 54v: [空白]

Ff. 55: [赤色標題なし]

F. 55: 挿絵〈書齋で執筆する聖アルクイン〉JB

欄外: ペテロの鍵、教皇冠、クレメンス7世の紋章を組み込んだキツタ文U字型棒状装飾 JDT

VIII (ff. 56-62)

F. 56: 挿絵〈4人の俗人の聴講者に講義をする在俗聖職者〉JB 工房?

欄外: キツタ文U字型棒状装飾 JDT 工房?

Ff. 56v-: 「尊者ベアダによる磔刑のキリストの7つの言葉の祈祷文」

F. 58: 挿絵〈石棺から上半身を現す苦悩の人〉JB

欄外：キツタ文U字型棒状装飾 JDT 工房？

Ff. 58v-: 「聖十字架に対する敬虔なる祈祷文」

F. 59v: 「永久に栄光ある純潔なる神の母マリアへの祈祷と讃歌」

Ff. 61: 「聖母マリアへの 12 の賛美の祈祷文」

F. 61v: 挿絵〈床に坐すマリアへの受胎告知〉JB

IX (ff. 63-70)

F. 63v: 「聖母マリアの冠への祈祷文」

F. 64: 挿絵〈6人の天使たちを従えて竜を退治する大天使ミカエル〉JB

F. 64v: 「聖母マリアへの祝詞」

F. 65: 「日常の祈祷文」

F. 66v: 「聖母マリアへの賛美を唱える方法」

F. 66v: 挿絵〈錨を持った聖クレメンスにとりなされて玉座に坐す聖母子の前に跪き祈るクレメンス7世〉JB (図2)

彩飾頭文字“O” JDT 工房

欄外：キツタ文U字型棒状装飾 JDT 工房

F. 68: 「聖母マリアについての散文」

F. 68: 挿絵〈幼児キリストを膝に抱えて床に座りながら、天使が甕から注ぐ湯が満たされた盥を右手で攪拌する聖母マリア、食卓に肘をつきながら母子を見る聖ヨセフ〉JB

欄外：球形のクレメンス7世の紋章を含むU字型棒状装飾 JDT 工房

F. 70: 「どの日でも唱えるべき特祷」

F. 70v: 挿絵〈2組の熾天使に挟まれた恩寵の座〉JB

X (ff. 71-75)

F. 72: 「上記とは別の、どの日でも唱えるべき特祷」

F. 72v: 挿絵〈4組の天使により左右を挟まれて玉座に座すTO型宝珠を持つ白髪の新〉JB

F. 73v: 「聖母マリアへの祈祷」

F. 73v: 挿絵〈TO型宝珠を持ち、両手を胸元で交差して隣に座す聖母マリアを祝福するキリスト〉JB

欄外：下部に円形のクレメンス7世の紋章1対に挟まれた交差する聖ペテロの鍵を配したU字型棒状装飾 JDT 工房

【附録 III】『サヴォワ時禱書』の巻末蔵書銘³⁾

(トリノの写本、p. 560)

- [I] はじめに、教会暦。
- [II] 一、詩篇。
- [III] 一、三位一体の時禱。
- [IV] 一、聖霊の時禱。
- [V] 一、パリ使用式聖母の小時禱。
- [VI] 一、我が主の受難の時禱。
- [VII] 一、洗礼者ヨハネの時禱。
- [VIII] 一、天使たちの時禱。
- [IX] 一、聖母への祈禱文数編。
- [X] 一、福音書記者ヨハネの時禱。
- [XI] 一、聖王ルイの時禱。
- [XII] 一、マルセイユの聖ルイの時禱。

(トリノの写本、p. 561)

- [XIII] 一、マグダラのマリアの時禱。
- [XIV] 一、受難、天使たち、諸聖人、三位一体の記念祈禱文数編。
- [XV] 一、死者のための終夜聖務。
- [XVI] 一、[悔恨の] 7 詩篇と連禱。
- [XVII] 一、[都詣での] 15 詩篇。
- [XVIII] 一、神、聖母、使徒、殉教聖人たち、証聖人たち、童貞聖女たちへの記念祈禱文数編。
- [XIX] 一、教皇たち、教会人たちへの記念祈禱文。
- [XX] 一、地上の王たち、君主たちのため [の祈禱文]。
- [XXI] 一、耕す者たちのため [の祈禱文]。
- [XXII] 一、大罪を犯した者のため [の祈禱文]。
- [XXIII] 一、難破の危機にある物のため [の祈禱文]。
- [XXIV] 一、囚人のため [の祈禱文]。
- [XXV] 一、施しをする者のため [の祈禱文]。
- [XXVI] 一、親類と友のため [の祈禱文]。
- [XXVII] 一、自分のため [の祈禱文]。
- [XXVIII] 一、煉獄にある者のため [の祈禱文]。

(トリノの写本、p. 562)

- [XXIX] 一、ここより三位一体と聖人、聖女たちへの記念祈禱文。
- [XXX] 一、神、聖母、殉教聖人、使徒、証聖人、その他の聖人、童貞聖女への記念祈禱文数編。

- [XXXI] 一、聖遺物への〔記念祈祷文〕。
 [XXXII] 一、接吻牌への〔記念祈祷文〕。
 [XXXIII] 一、神への祈祷文数編。
 [XXXIV] 一、ミサの時の祈祷文。
 [XXXV] 一、起床と就寝の時の祈祷文。
 [XXXVI] 一、十字架の祈祷文。
 (トリノの写本、p. 563)
 [XXXVII] 一、聖ディオニシウスの祈祷文。
 [XXXVIII] 一、聖王ルイの祈祷文。
 [XXXIX] 一、聖体拝領の際の祈祷文。
 [XL] 一、三位一体の祈祷文。
 [XLI] 一、神への新たな祈祷文。
 [XLII] 一、起床時の新たな祈祷文。
 [XLIII] 一、聖ヨハネの福音。
 [XLIV] 一、三位一体の新たなミサ。
 [XLV] 一、聖ディオニシウスのミサ。
 [XLVI] 一、追悼ミサ
 [XLVII] 一、聖王ルイのミサ。
 [XLVIII] 一、天使たちのミサ。
 [XLIX] 一、聖霊のミサ。
 (トリノの写本、p. 564)
 [L] 一、十字架のミサ。
 [LI] 一、聖遺物のミサ。
 [LII] 一、聖母のミサ。
 [LIII] 一、聖ペテロと聖パウロの記念祈祷文。
 [LIV] 一、聖ヒエロニムス詩篇。

注

- 1) 一覧表は、『ベリー公の小さき時祷書』電子版ファクシミリの閲覧とともに、彩飾画家の同定に関しては Meiss 1967, pp. Avril 1989, p. 109 を参照した。『ベリー公の小さき時祷書』電子版 ark:/12148/btv1b8449684q
- 2) 彩飾画家の同定は、Manzari 2006, pp. 211-16 ならびに idem 2011, p. 6 を参照した。折丁の構成等の写本学的知見は、筆者による実地調査に基づく。
- 3) Durrieu 1911, pp. 516-517 掲載の『サヴォワ時祷書』巻末のジャン・フラメル筆の蔵書銘と祈祷文一覧の翻刻に拠る。

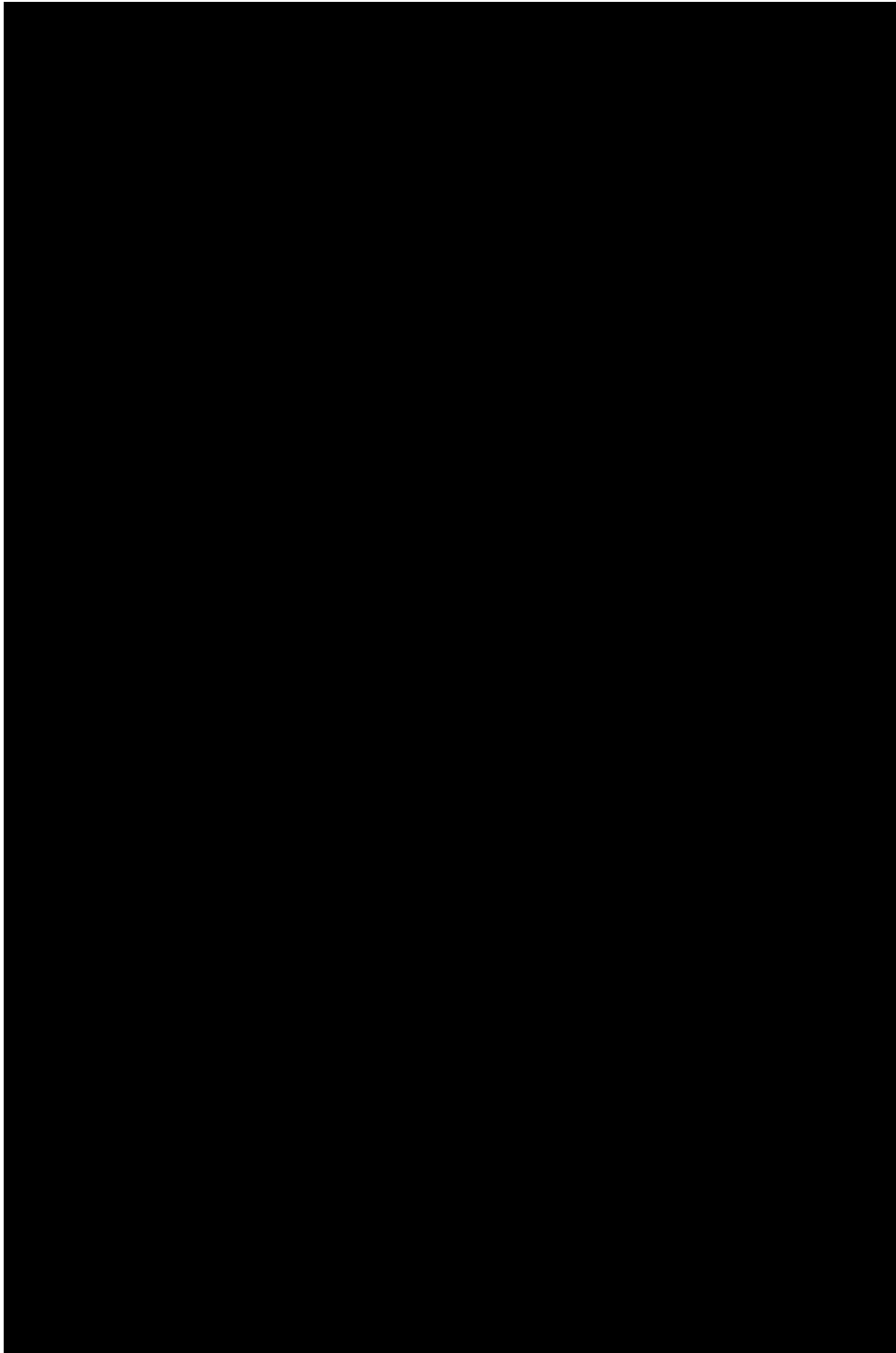


図1. ジャクマール・ド・エダン《天使に囲まれ、地上を見下ろす天界の神；跪く貴顕に天を指し示すドミニコ会会員》『ベリー公の小さき時祷書』フランス国立図書館、ms.lat. 18014, f. 8. (Source: gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France)

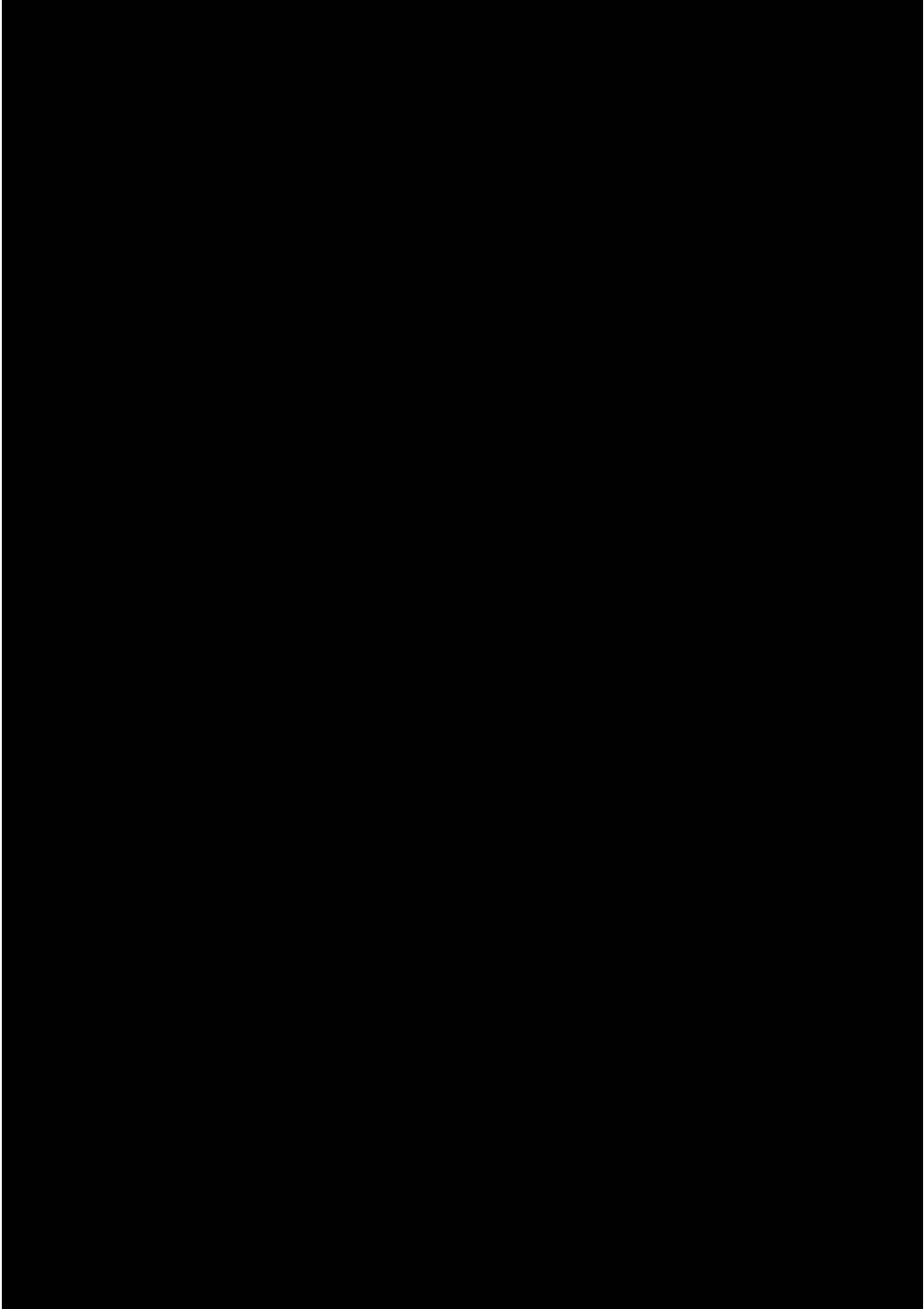


図 2. ジャン・バンディーニ《聖クレメンス 1 世にとりなされ聖母子の前で跪拝する対抗教皇クレメンス 7 世》、ジャン・ド・トゥルーズ《彩飾頭文字 O・キツタ文棒状装飾》『クレメンス 7 世の祈祷書』アヴィニヨン市立図書館セッカノ・メディアテーク、ms. 6733, f. 66v（Source : medium.irht.cnrs.fr / Médiathèque Ceccano, Bibliothèque municipale d'Avignon）